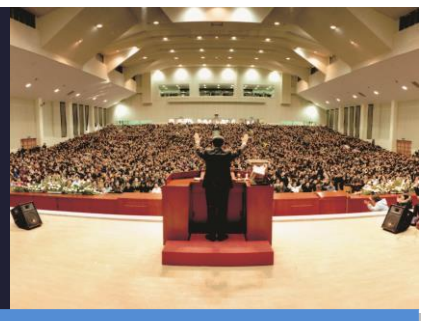
第 2018-22 号

恵みと真理のニュース



2018 年 6 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

神様は私の欲心を取り除いてくださって、財物の大きい損失を防いでくださいました

私は公務員で奉職した父と性品が穏やかな母のもとで6人兄弟の仲で5番目の娘で生まれ育ちました。幼いごろから、家庭で何の問題もなく信仰生活にどんな不便や障害もなかったので親の愛をたくさん受けて育ったのでその時期はただ感謝するだけです。父が退職しながら家賃をもらう家を作ってある開拓教会が入って一部を聖殿で使用しました。通っていた教会が家から遠くてたまに遅く帰ってくるのを祖父が不満を思っていて、私達は自然に同じ建物にある教会を仕え礼拝を捧げました。その教会がリバイバルして聖殿を建築した今、実家の家族はその教会で重い責任を負かされて聖徒を仕えています。
私は青年になって願って祈ったとおり良い職場に入って仕事をしながら青年部の活動に充実する事が出来ました。神様を向かう信仰と愛が深くなり“わたしの一生の願いはこれだけで主の事をしながらこの世を離れる日、主の前に行く。”賛美を歌う時、聖霊様が心に感動を与えてくださり十分の一献金を捧げ始めましたがもっと楽しく信仰生活をしました。配偶者のため祈りましたが主が答えてくださり、神様をとても愛し、真実な人に出会って結婚して知恵あるきれいな二人の女を産んで育てました。
そのように神様から選ばれて時ことに与えてくださる福を受けて教会で熱心に奉仕する生活をしました。週末の旅行のような趣味生活より教会で教師として聖歌隊員で学生と教会を使えることがもっと楽しくて幸せでした。
所が、このように他の人を見るには何の問題もないように見えた私の信仰生活を自ら省みるようになって悔い改めました。そのきっかけは最近あった事です。間違った判断と選択をして大きく経済的に損失を受けそうだった事です。 欲心が先立って相場差益を得るために購入した建物と住宅が政府施策に阻まれて売買が簡単でないようになったのです。私たちは悩んで祈る時、教区で共にとりなし祈りをしてくださり、伝道士も欲心で行ったら悔い改めをして一日100回以上、神様に感謝しながら神様の助けを求めなさい！と勧めました。
私は、神様の御旨を知りたいと祈って人間的な考えと欲心で判断して誤った事を悔い改めながら神様の助けを求めました。教区で多くの方々が祈ってくださいました。感謝する事が摂理して助けてくださった神様の恵みで恐れた大きい損失はなく、良いとき建物と住宅を売り渡す事が出来ました。これを見て周りには神様を信じない人々まで“本当に神様がおられると思います。”祈りの力が強いですね。という話を聞きました。
私、自分を信じて自分の思う通りで行って失敗した経験後、私は何でもまず祈りで神様の御旨を聞いて神様の御言葉に照らして判断し行うようになりました。今まで私は間違った世俗的な欲望がなく自分なりに信仰生活をしていると思いましたが、実は私の心にも取り除くべきの欲心がありました。しばらく間、財物の損失を受けて世の人々が生きる方法ではなくて神様の御言葉に従って生きるのが私たちにとって大事であることを悟りました。そして間違った事をした時には、すぐ、悔い改めて神様の助けを求める時、神様が助けてくださり、縛っていた問題が解決され、万事が益となるように共に働くようになるのを経験しました。何よりも、牧師の説教が私に下さる尊いメッセージで心が強くなり、行動する神様の御言葉であることを悟りました。
エジプトを離れカナン地を向かうイスラエル民たちを昼は雲の柱で、夜は火の柱で保護して導いてくださった神様、紅海の前で後ろにも行けなくて前にも進まない状況で恐れた民たちを救ってくださった神様、毎日マナを送ってくださり、民たちを満腹させたように導いた神様が私の人生の中でもいろんなことで恵みと賜物で与えて助けてくださったことに感謝します。
わたしが清い欲心を持って主の事を力を尽くすと神様が首区域長の尊く職分をくださいました。職場の事で忙しくて福音伝道に全力を尽くすのが難しいですが、一人、一つの家庭を伝道する事に最善を尽くしました。その一人、一人がすべて混じり物の入ってない穀類になり区域が大きくリバイバル姿を想像するとき神霊な喜びにわたしの胸いっぱいになります。
私は聖歌隊員として奉仕しながら教会の３代目標の中で一つである“世界宣教の積極化”のため世界宣教連合会で“グレース・アンド・ツルースミッションクワイア”団員で奉仕しています。海外宣教の奉仕活動をしながら、全ての迫害を受けても福音の種を巻いている我が教会宣教師と宣教協力教会の使役する方々の姿で深く感動を受けます。福音が伝播され恵みと真理の御言葉が伝える所で一つ二つ聖殿が建てられ多くの聖徒と青年と子供達の救いの喜びを歌いながら幸せな姿を見ます。それで、宣教に帰ってくるときことに大きいやりがいも感じるし、大きい使命感が充満になります。地の果てまで福音を伝播するこの尊い使命を下さり、用いてくださる神様に感謝します。
一日１００回、その以上の感謝の告白と祈りをするようにわたしに大きい恵みと愛を与えてくださる神様に心を尽くして賛美します。。“ いつも喜んでいなさい。 絶えず祈りなさい。 どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。”。”（デサロニケ二５：１６～１８）この御言葉を積極的に実践して熱心に主の事にしながら後悔しないクリスチャンで生きて行きます。神様に全ての栄光を捧げます。

［信仰コラム］　肉体にとげを与えられた理由

”そこで， 高慢にならないように， わたしの肉体に 一つのとげが 與えられた...”（コリントの信徒への第二の手紙 12:7～10）

使徒パウロにはとても深刻な問題がありました。パウロはそれを”私の肉体に与えられたとげ”と言いました。聖書にはパウロが話した”肉体にとげすなわちサタンの使い”について具体的な言及がないので何だと断定することはできません。聖書にそれを明示しなかった理由があると見ることができます。私達にもパウロの肉体にあるとげに該当する何かがあり得て、それは人々によって異なるからです。神様がパウロの肉体にとげを許された理由に対して使徒パウロが悟った内容を調べてみましょう。
第一、パウロは自分があまりにも傲慢になって自ら誇らないようにするため神様が肉体にとげを与えられたということを悟りました。
パウロは自慢を持つほどの条件を持っていました。一つは、肉体的な面で自慢する条件を持っていました。二つは、主の事のために献身した経歴と業績な面で自慢する条件を持っていました。三つ、神霊な体験から自慢する条件を持っていました。パウロは自分にある肉体のとげが傲慢を制御する装置の役割をしたということを悟って”そこで， 高慢にならないように， わたしの肉体に 一つのとげが 與えられた． それは，高慢にならないように， わたしを 打つ サタン の使なのである．”と話しました。
第二、パウロは肉体にあるとげが自分から離れるよう主に求める中で、彼に神様の恵みが十分だということを悟りました。
パウロが神様に数回求めたが、神様の応答は”わたしの 恵みはあなたに 對して 十分である”という御言葉でした。これは”恵ましい拒絶”です。私達に与えてくださる神様の恵みはとげを包容して残る程十分です。神様が与えてくださる十分な恵みの中にはイエスキリストによって注がれる神様の愛があります。聖徒達に対する神様の愛は私達に全ての難しさを勝ち得て余りがある恵みになります。私達にある問題がいかにしんどくて苦しいとしても神様がキリストイエスによって私達に与えてくださった恵みで耐えることができます。
第三、パウロは肉体にあるとげによって自分の弱さを認識し、神様に深く頼ると神様の能力が自分に留まり自分を通じて現れるということを悟りました。
肉体にあるとげがパウロを迅速に教育訓練させました。パウロは”わたしの 力は 弱いところに 完全にあらわれる 」． それだから， キリスト の 力がわたしに 宿るように， むしろ， 喜んで 自分の 弱さを 誇ろう．”と告白しました。人は経済的な難しさによる苦難、疾病による苦難、人間関係による苦難、計画が挫折されることによる苦難、精神的な苦悩による苦難等によって自分の惰弱を認識するようになります。問題と苦難のとげによって自分の弱さを知って神様の能力を渇望するとしたら、問題と苦難のとげによって神様を深く頼るようになると問題と苦難のとげが誇りになるでしょう。使徒パウロはこのような事実を悟って”だから， わたしは キリスト のためならば， 弱さと， 侮辱と， 危機と， 迫害と， 行き 詰まりとに甘んじよう． なぜなら， わたしが 弱い 時にこそ，わたしは 强いからである．”としました。
パウロは肉体にとげがあるにも関わらず、神様の権能で地中海を囲んだ広大な地域に福音を伝えて教会を設立し、働き者を養成しました。自分の知識と能力、自信のため神様の能力に対する渇望もなく、神様の助けを頼る心もない人は却って、不幸な人です。パウロに除去されないとげがあったように私達にもそのような問題があるでしょう。とげの種類が何であれ、皆さんはそのとげが自分を謙遜になるようにすることにして、神様の恵みが十分だという事実を悟らせることにしてください。自分の無力を知らせてキリストの能力が私の中に留まるようにしてください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

教えて 悟られる聖霊様

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

物事を認識するために、我々は 5 つの感覚器官の目、耳、鼻、舌、皮膚を使用します。しかし、このような肉の感覚器官にすべての物事の実像をすべて認識することができるわけではないです。顕微鏡や望遠鏡などのどんなのツールを利用するといっても同様です。コリント人への第一の手紙 2 章には、次のような言葉があります。 **「ところが， わたしたちが 受けたのは，この 世の 霊ではなく， 神からの 霊である．それによって， 神から 賜わった 恵みを 悟るためである． この 賜物について 語るにも，わたしたちは 人間の 知恵が 教える 言葉を 用いないで， 御霊の 教える 言葉を 用い，霊によって 霊のことを 解釋するのである．生れながらの 人は， 神の 御霊の 賜物を 受けいれない． それは 彼には 愚かなものだからである． また， 御霊によって 判断されるべきであるから， 彼はそれを 理解することができない」（コリント人への第一の手紙 2：12~ 14）**

人が得られる知識の 2 つに大別すると、肉に属したものと霊に属するものがあります。 霊に属する知識は、聖霊様から得られます。霊的な知識の真の価値は、 肉に属した人は知らず霊に属する人だけが知っています。聖霊様は聖徒たちが霊的な知識を持つことができるようにするために働かれます。過去 2 週間に世を責める聖霊様とイエス様を信じた者が新しく生まれ変わり聖霊様について説明しました。今日は聖徒を教えて導かれる聖霊様について説明します

第一に、聖霊様は聖徒に神様の子どもになったことを知るようにします。

イエス・キリストを信じて新しく生まれた人は、神の子どもと呼ばれる身分を得るようになります。神の子どもと呼ばれる身分は人間の功績や努力によって得られることがありません。人間の血縁関係によって得ることもありません。聖書に記録されることを**「 しかし， 彼を 受けいれた 者， すなわち， その 名を 信じた人々には， 彼は 神の 子となる 力を 与えたのである． それらの 人は， 血すじによらず，肉の 欲によらず， また， 人の 欲にもよらず， ただ 神によって 生れたのである」（ ヨハネによる福音書 1：12,13 ）**しました。神から、生まれた人だけが神の子どもです。これは、聖霊様で生まれ変わった者です。神の子どもとされる「権威を与えられた。」としました。 「権威」と翻訳された原語は「権利」という意味もあります。神の子どもとなる権利は、神様が与えられるので、誰も奪うことができません

ガラテヤ人への手紙 4 章 7 節に見ると、**「 したがって， あなたがたはもはや 僕ではなく，子である． 子である 以上， また 神による相續人である．」**しました。 ロ―マ人への手紙 8 章では、**「 もし 子であれば， 相續人でもある． 神の 相續人であって， キリストと 榮光を 共にするために** 苦難**をも 共にしている 以上， キリスト と 共同の 相續人なのである． わたしは 思う．今のこの 時の苦しみは， やがてわたしたちに 現されようとする 榮光に 比べると，言うに 足りない．」（ ロ―マ人への手紙 8：17,18）**しました。神様の子どもは、キリストと共に相続者になります。その相続は、神の国で享受する栄光といのちと祝福を指します。神の子どもなる者は、キリストと共に受けることになるすばらしく驚くべき相続を考えながら生きて行くべきです。将来に享受する相続に内包されたその栄光に比べれば、世の苦難は、無視してもいいほどのものです。したがって、聖徒たちは、自分が神の子どもになったという事実を認識して実感しながら生きるべきです。聖霊様は聖徒たちに、これを認識して実感するように教えて悟られます

聖霊様は聖徒たちにとって、神を「アバ、父よ」と呼ぶようにおられます。 「アバ」は子供たちが父親を呼ぶときに使用する言葉で父への信頼と愛情と親しみやすさがそのまま溶け込んでいる呼称です。 「アバ、父よ」という呼称は、神と聖徒の間には実質的な父子の関係が成立したことを示すものです。ロ―マ人への手紙 8 章に **「すべて 神の 御霊に 導かれている者は， すなわち， 神の 子である．あなたがたは 再び 恐れをいだかせる 奴隷の 霊を 受けたのではなく， 子たる 身分を 授ける 霊を 受けたのである． その 霊によって， わたしたちは「アバ ， 父よ 」と 呼ぶのである．御霊みずから， わたしたちの 霊と 共に，わたしたちが 神の 子であることをあかしして 下さる」（ロ―マ人への手紙 8：14～16）**しました。このように、聖霊様は、私たちが神を「アバ、父よ」と呼ぶようにして、我々の霊が神の子であることを認識して実感するようにしてくださいます

第二に、聖霊様は私たちがキリストにあって、キリストが私たちの中におられることを知るようにしていただきます。

イエスが十字架をつけられる時が近い来た時点で弟子たちに言われた。**「わたしは 父にお願いしよう． そうすれば， 父は 別に 助け 主を 送って， いつまでもあなたがたと 共におらせて 下さるであろう．それは 眞理の 御霊である． この 世はそれを 見ようともせず，知ろうともしないので， それを 受けることができない． あなたがたはそれを 知っている． なぜなら， それはあなたがたと 共におり， またあなたがたのうちにいるからである．わたしはあなたがたを 捨てて** 孤兒**とはしない．あなたがたのところに 帰って 來る．もうしばらくしたら， 世はもはやわたしを 見なくなるだろう． しかし， あなたがたはわたしを 見る． わたしが 生きるので， あなたがたも 生きるからである」（ヨハネによる福音書 14：16~19）**

イエスは聖霊様を「他の助け主」と呼ばれました。 「イエスが助け主なのに、聖霊様は、他の助け主であられる。」という意味です。聖霊様は、イエスと同じ愛の能力と性格を持った慰め主でいらっしゃいます。イエス様と聖霊様は、三位一体の神の各位であり、本質において同一おられます。イエスが天に昇りなされた後、イエスのお話の通りに弟子たちがある所に集まって 聖霊様の降臨を待って祈ったから 10 日がいた日でした。突然天から急に強い風のような音があり、私たちの座った全家にいっぱいであり、火の舌のように割れるのが私達に示し、それぞれの人の上に臨んでいるところで、私達はすべて聖霊様に満たされました。（行 2：1- 4）聖霊様の満たしを受けた弟子たちは、イエスが助け主に対して言及した言葉を実感するようになりました。

彼らの心がいくら嬉しいので言葉で形容することができませんでした。

神の御座の右におられるイエス・キリストがまた今、私たちの中におられます。

これは私たちの理解を超越する神の属性であり、恵みです。聖霊様はこの事実を聖徒たちが悟り日々主と同行する人生を生きるようにしていただきます。コリント人への第二の手紙 13 章 5 節に記録されるのを**「あなたがたは， はたして 信仰があるかどうか， 自分を 反省し，自分を 吟味するがよい． それとも， イエス・キリスト があなたがたのうちにおられることを， 悟らないのか． もし 悟らなければ，あなたがたは， にせものとして 見捨てられる」**としました。クリスチャンというのは、キリストの内に宿っている人でキリストが自分の内に宿っている人です。このように生きるようになさるのが聖霊様です

第三に、聖霊様は私たちに神の言葉を思い出させており、真理を悟るようにしていただきます。

イエスは弟子たちになさるお話が多かったが、留保されました。その理由は、弟子たちの理解が及ばず、これの堪えるのがなかったからです。そして、このように言われました。 **「わたしには， あなたがたに 言うべきことがまだ 多くあるが， あなたがたは 今はそれに 堪えられない．けれども 眞理の 御霊が 來る 時には， あなたがたをあらゆる 眞理に 導いてくれるであろう． それは 自分から 語るのではなく， その 聞くところを 語り， きたるべき 事をあなたがたに 知らせるであろう」（ヨハネによる福音書 16：12,13）**しました。また、イエスは言われた、**「これらのことは，あなたがたと 一緒にいた 時， すでに 語ったことである．しかし， 助け 主， すなわち，父がわたしの 名によってつかわされる 聖霊は， あなたがたにすべてのことを 教え， またわたしが 話しておいたことを， ことごとく 思い 起させるであろう 」（ヨハネによる福音書 14： 25,26）**しました。聖霊様は、私たちが聞いた神の言葉を思い出させておられます。言葉の意味を悟られます。私たちを真理に導いてくださいます

第四に、聖霊様は聖徒に将来の事を教えてくださいます。

ヨハネによる福音書 16 章 13 節に**「けれども眞理の 御霊が 來る 時には， あなたがたをあらゆる 眞理に 導いてくれるであろう． それは 自分から 語るのではなく， その 聞くところを 語り， きたるべき 事をあなたがたに 知らせるであろう」**しました。聖霊様は、神がすでに明らかにされた言葉の中で、将来の事を教えてくださいます。聖書の預言は、聖霊様の教えがなければ正しく理解できません。聖霊様は、神の計画と目的について教えてくださいます。そして聖徒たちが将来の対して明確なビジョンを持って生きていくよう教えてくださいます。聖霊様はどのように生きていくことが私たちの将来のために賢く生きていくのかを悟らせていただきます。したがって、聖徒は、自分の将来の事を聖霊様が教えてくださって、導きをお願いを求めなければならない

今までの言葉をまとめてみましょう。聖霊様は、私たちが神の子どもになったことを知っておられます。これを実感するようにします。そして、キリストが私たちの中におられ、私たちはキリストのうちにあり、我々はキリストを離れては何もできないことを知っておられます。また、神の言葉を思い出させていただき、真理を悟るようにしていただきます。そして将来の事を知るようにして、行く道を導いてくださいます。あなたは聖霊様が教えて悟り導かれる恵みを日ましに深く豊かに体験するように願いします。